

コールセンター Q&A

Q102

百日咳菌感染症を疑っており検査を依頼したいのですが、それぞれの検査の特徴について教えてください。

A102

百日咳検査は、2016年に LAMP 法や IgA と IgM 抗体測定が保険適用されたことを機に、小児呼吸器感染症診断ガイドライン2017にて診断フローが改訂されています（総合検査案内2018 77ページ参照）。その診断フローに示される検査についての特徴を下記にお示しします。

- ① 百日咳菌 DNA(LAMP 法)
 - ・材料は後鼻腔ぬぐい液を提出。
 - ・感度、特異度が高く、早期診断に有用。
 - ・有効抗菌薬を投与されている場合は、偽陰性の可能性あり。
- ② 百日咳菌抗体(2種類の抗体を報告)
 - ・ワクチン接種の影響を受けるため、ペア血清の判定が望ましい。
 - ・PT-IgG 抗体は、2週間後から徐々に上昇し、ピークは4週間後以降。
 - ・FHA-IgG 抗体は、特異性が乏しいため、参考程度となる。
- ③ 百日咳抗体 IgA ④ 百日咳抗体 IgM
 - ・ワクチン接種の影響を受けないため、単一検査での診断が可能。
 - ・IgMの方が、IgAと比較し、感度が高いと言われている。

<百日咳検査のタイミング>

病週/検査項目	0～2週	2～4週	4～6週	6～8週	8～10週
①百日咳菌 DNA(LAMP法)	←-----→ (3週間以内の検査が推奨されています。)				
②百日咳菌抗体		←-----→ (3～8週間以内の検査が推奨されています。)			-----→
③百日咳抗体 IgA		←-----→			
④百日咳抗体 IgM		←-----→			

*** 百日咳感染症は5類感染症のため、診断後7日以内に届け出が必要です。**

お問い合わせ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 担当 生化・免疫係

* ウェブページでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>

<広報委員> 谷敷 圭美 / 石田 啓 / 枘本 健 / 大田 彩咲日